

第39回 大江戸散歩の会

鎌倉古道沿いの自然と歴史の散歩道

「赤塚城本丸跡～東京大仏～徳丸ヶ原公園」

緊急連絡先＝070-5019-4033

《散歩道のご案内》

ここ板橋区高島平・赤塚・徳丸地域は鎌倉古道沿いに武蔵野の鬱蒼とした雑木林が点在し、平安時代から幾多の戦乱の舞台になった所で、武蔵野千葉氏ゆかりの城址や古刹・名刹が集中しています。また、豊かな荒川の水環境の元早くから農業地域として開かれ、いまだに江戸時代の「田遊び」の伝承が伝えられています。

幕末には、海外からの開国の圧力に抗するため、砲術家「高島秋帆」が幕命により日本で初めての西洋式砲術訓練を高島平にて実践し、注目を集めた地域で、高島秋帆の名前が高島平の地名になり今に引き継がれています。

深まりゆく秋の一日、貴方の知らない江戸の歴史道を堪能してください。

＜散歩道の順路＞

都営三田線「新高島平駅」→大門交差点→赤塚諏訪神社（田遊び伝承地）→竹の子公園→区立美術館→区立郷土資料館（小休息）→赤塚城本丸跡→赤塚梅林公園→赤塚氷川神社→富士塚→赤塚乳房榎大神（樹齢1750年の古木）→石成公園（T）→清涼寺→赤塚観音堂→乗蓮寺（東京大仏）→【ランチタイム（大仏蕎麦）】→不動の滝公園→赤塚植物園→旧鎌倉街道→松月院（千葉氏菩提寺・高島秋帆ゆかり）→松月院大堂（板橋区内最古寺）→徳丸槇の道→水車公園→徳丸石川通り→安楽寺→徳丸北野神社（田遊び伝承地）→郷土芸能会館→徳丸公園（高島秋帆ゆかり）→都営三田線「高島平駅」解散

① 赤塚諏訪神社

赤塚城主千葉自胤が信州の諏訪大社の分霊を勧請して文明年間（1469-1487年）に創建したと伝えられる。鳥居をくぐると朱塗りの随身門があり、本殿の前には左右に銀杏の巨樹がある。夫婦銀杏と呼ばれ、樹齢は明らかではないが、縁結びや夫婦和合のシンボルとして信仰を集めている。

また、この神社は国の重要無形民俗文化財に指定されている「田遊び」の行事で知られている。田遊びとは、稲作の作業内容を唱えて五穀豊穡を祈願し、神に奉納する行事で、毎年2月13日に行われる。→竹の子広場⇒旧鎌倉街道→区立美術館(T)→区立郷土資料館（小休息）

② 赤塚城本丸跡

康正2年（1456年）に市川城から移った千葉自胤によって築城されたと伝えられる。但し、伝承によればそれ以前に源頼朝が挙兵後に徳丸を通過した際に立ち寄ったとも言われ

ており、正確なところは不詳である。赤塚千葉氏は後北条氏の有力な家臣として活躍したが、天正 18 年（1590 年）に豊臣秀吉の小田原征伐で後北条氏が滅亡すると、千葉氏も所領を没収され、赤塚城は廃城になった。

③ 赤塚氷川神社

禄元年（1457 年）に武州赤塚城主千葉自胤が武蔵国一の宮氷川神社より御分霊を勧請したことに始まる（旧別当は石成山清涼寺。）。そして、御霊神社の「御霊之神」として祀られる藤原広継命を合祀し、現在の形態を取っている。但し、御霊神と当社の直接的な縁起は不明。また、その年代も定かではないが、『新編武蔵風土記稿』には、「氷川御霊合社、村の鎮守なり」と記されており、この頃は既に合祀されていたとみられている。

その後、江戸時代後期の安政 5 年（1858 年）には、氏子の協力によって総けやき造りの本殿を再建し、明治 14 年 8 月拝殿を増築。昭和 52 年、拝殿も改築され、現在に至る。当社のけやきの老木には乳房の病に霊験があるとして信仰を集めている。→富士塚

④ 赤塚乳房榎大神

樹齢 1750 年と言われている榎の大木。乳房の病に霊験があるとして信仰を集めており三遊亭圓朝の『怪談乳房榎』のモデルの一つであるという。現在は道路で分断されているが以前は氷川神社と同じ境内にあったそうだ。→石成公園(T)→清涼寺→赤塚観音堂

⑤ 乗蓮寺(東京大仏)

応永年間（1394 年-1427 年）に了賢無的が山中村（現在の板橋区仲町）にて人々に教えるために創建したと伝えられている。天正 19 年（1591 年）に徳川家康から十石の朱印地が寄進され、その後も歴代の将軍から朱印地が与えられ格式ある寺院となった。また八代将軍・徳川吉宗の鷹狩の際の休憩所・お膳所としても使われた。その後も長く仲宿の地にあったが首都高速道路の建設と国道 17 号の拡幅により、昭和 48 年（1973 年）に現在の赤塚の地（赤塚城二の丸跡）に移転した。そして 1977 年（昭和 52 年）、かつて東京を襲った関東大震災や東京大空襲など、悲惨な震災や戦災が再び起きないよう願いを込め当寺院の代名詞にもなっている東京大仏が建立された。《ランチタイム》

⑥ 不動の滝

板橋区には、かつていたるところで湧水が湧いていたようですが、都市化の波に押されてもう殆ど残っていないようです。ここ、赤塚不動の滝は、そんななかでも自然の、昔ながらの雰囲気が残っていて貴重です。江戸時代には富士山などに巡礼する旅人が、出発まえにこの滝で「みそぎ」を行ったそうです。

⑦ 区立赤塚植物園

この植物園は、武蔵野の面影を色濃く残す赤塚の丘陵地を活用し、自然や植物がより身近なものとして親しむことができるような施設として 1981 年（昭和 56 年）10 月に開園しました。

本園と万葉・薬用園からなり、本園は、狭いながらも樹木見本園として多くの樹種が植えられ、その下には野草も可憐な花を咲かせます。また万葉・薬用園に詠まれた植物や薬

用植物が植えられています。→旧鎌倉街道

⑧ 松月院(千葉氏菩提寺)

「松月院 萬吉山宝持寺 曹洞宗」 延徳四(1492)年、千葉自胤(よりたね)はこの寺を菩提寺と定め、寺領を寄進し自ら中興開基となった。開山堂には開基の位牌をまつり、本堂西側の墓地には自胤のほか比丘尼了雲の墓碑も建てられている。

また、天正十九(1591)年、徳川家康は四十石の朱印地を当寺に寄進したが、これに習って歴代将軍が下付した朱印状が寺宝として秘蔵されている。

天保十二(1841)年、長崎の人・高島秋帆は幕命により、徳丸ヶ原で洋式砲術の訓練を行ったが、その前夜、当時を本陣とした縁故で遺品類が保存され、顕彰碑も建てられている。

⑨ 松月院本堂

江戸期に松月院の境外堂となった当大堂は、平安時代に創建された板橋区内最古の寺院であった。南北朝の建武・延元(1334~40年)の頃には七堂伽藍をそなえた大寺院であったので、村人は大堂と称していたという。永禄4年(1561年)長尾景虎(後の上杉謙信)が小田原北条氏康を攻めた際に、その堂宇はことごとく焼き討ちにあつたとされる。

現在の建物(阿弥陀堂)は、延宝年間(1673~81年)には建てられおり、内部に安置されていた区の有形文化財の阿弥陀如来や閻魔王の木造は、現在松月院宝物館で保存されている。(宝物館見学には事前連絡が必要。有料)また、南北朝時代の暦応3年(1340年)の鑄造で国の重要美術品指定の梵鐘は、区立郷土資料館で展示されている。なお、大堂の建つ丘はかつての古墳であるという。→徳丸橋の道

⑩ 水車公園

水車公園は旧前谷津川と武蔵野台地斜面を利用した公園である。公園内には茶室(広間、小間)、日本庭園(心字池・築山・枯山水・つくばい)、水車小屋、水田、滝、炭焼き窯などが配置されている。→徳丸石川通り

⑪ 安楽寺

御本尊は阿弥陀如来。真言宗智山派に属し、紅梅山来迎院安楽寺と号しています。寺伝によると、当寺は応永三年(一三九六)尊栄によって創建されたと伝えられています。御祭神菅原道真を祀る北野神社とは深い関係があり、寺号安楽寺も九州太宰府天満宮の別当安楽寺に因んだと考えられています。

明治七年七月、当寺内に区内最古の私立紅梅学校(現紅梅小学校)が創立され、明治二二年になって現在の場所へ移転しました。

⑫ 徳丸北野神社

徳丸村に古くからある神社で、長徳元年(955)、京都の北野神社の分霊を勧請し創建されたと伝えられています。当時流行していた疫病が里人たちの祈願した梅の古木の靈験により鎮まりました。この時農夫の業を演じて奉納したのが現在「国重要無形民俗文化財」にも指定されている「田遊び」の起源とされています。→区立郷土技能会館

⑬ 徳丸ヶ原公園(砲術訓練記念碑)

高島平、三園、新河岸一帯は、江戸時代徳丸原と呼ばれ、水田や草刈場が広がっていました。当初は幕府の鷹場でしたが、のちに砲術訓練場として使われ、天保 12 年 (1841) 5 月には長崎の町年寄高島秋帆による日本最初の洋式砲術の訓練が行われました。秋帆は弁天塚 (現・新高島平駅) 付近に陣を構え、砲兵、騎兵、歩兵による銃陣を行いました。大規模開発に伴い、昭和 44 年 3 月 1 日、高島秋帆にちなみ、町名「高島平」が誕生しました。

⇒都営三田線「高島平駅」解散

